**＜7回目のお話＞　聖霊様がなさること　１**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

最近、聖霊様の働きを感じたことがありますか。礼拝の中で聖霊様の臨在を感じたことがあるなら分かち合って下さい。また、そのような臨在を体験するには何をすべきかを分かち合って下さい。

◆**御言葉を開いてみましょう**

創世記1:1-2

◆**御言葉を知る**

聖霊様は天地創造にも参加され、イスラエルの歴史の中で救いのみわざを導かれ、イエス様の誕生と一生、そして贖いの働きにも共におられました。つまり、聖霊様なくして天地創造も、人類の救いも成し遂げられませんでした。今回は、聖霊様のなさった創造と救いの働きについて見てみます。

**1．創造される聖霊様**

聖霊様は、三位一体の神様の一つの位格として、天地創造に参加されました。神様が天地を創られるとき、地は茫漠として何もなく、やみに覆われていましたが、聖霊様がその上を動きながら命を吹き込まれ、秩序と調和をもたらしました（創世記1:1-2）。

　天地が創造されてからも聖霊様の創造の働きは続いています。聖霊様は創られた世界に絶え間なく関与され、万物に命を与えられ、世界を守っておられます（詩篇104:29-30）。よって、私たちが生きているこの世界には聖霊様の息吹が宿っています。聖徒たちはこのような世界を大事に思い、よく守りながら、イエス様の再臨によって万物が回復するときに備えなければなりません（ローマ8:18-21）。

　聖霊様は人間の創造にも重大な役割を果たしました。人間は本来、土で創られた存在でした。しかし、神様が聖霊様を意味する「いのちの息」をその鼻に吹き込まれたので、人間は生霊、すなわち生きている存在となりました（創世記2:7）。アダムとエバが堕落したことで人間は神様のいのちを失ってしまいましたが、イエス様が十字架に架けられて亡くなられ、復活されたことで救いの道が開かれました。これからイエス様を救い主として受け入れ、救われた神様の子どもは、再び聖霊様の内住を回復できるようになります。だから、救われて聖霊様が住んでおられる聖徒は、神様が人間を初めて創造されたときのように、神様と交わりを持ちながら、神様の栄光のために生きることができます。

**2．イスラエルの民とともにおられた聖霊様**

聖霊様は旧約時代のイスラエルの民ともともにおられました。聖霊様がイスラエルの民の人生と信仰にどのように関与されたかを、歴史の順で見てみます。

イスラエルの民に向けられた聖霊様の働きは族長時代から始まります。ヨセフは聖霊様の下さる感動によって卓越した力を発揮してエジプトの総理となり（創世記41:38）、同族を飢饉の危機から救いました。イスラエルが荒野をさまようときも聖霊様は働かれました。聖霊様はモーセに臨まれ、民を導く力を下さり（民数記11:17）、ベツァルエルとオホリアブなどに知恵と英知を与えられて幕屋を作るようにされました（出エジプト31:1-5）。また、イスラエルの祭司制度は荒野の時代にシナイ山で制定されましたが、旧約の祭司たちは聖霊を象徴する油を塗る儀式をもって幕屋にて仕える資格を得ました（出エジプト29:7）。士師時代にも聖霊様は士師たちに臨まれ、指導力を発揮してイスラエルを危機から救い出せるようにし（士師3:10、6:34）、特にサムソンには超人的な力を与えたりしました（士師14:6）。

王政時代にもともにおられた聖霊様は、イスラエルの王たちに臨まれて、イスラエルを統治できる権限と力を与えられました。イスラエルの第2代王ダビデは、サムエルによって油注ぎを受けてから聖霊によって満たされ（サムエルⅠ16:13）、神様のみ旨に沿ってイスラエルを統治し、その結果、イスラエルは富国強兵を成し遂げました。ダビデ以後にも、イスラエルの王たちは王位に就くときに油注ぎの儀式を行いました（列王記Ⅰ19:15-16）。王政時代に王とともにイスラエルを導いた預言者たちにも聖霊様はともにおられました。エリヤとエリシャは聖霊の力で奇跡を行いながら、イスラエルを危機から救い出しました（列王記Ⅱ2:15）。

イスラエル王国が滅亡し、民がバビロンにおいて捕囚生活を送るときにも聖霊様の働きは続いていました。預言者エゼキエルは聖霊様の働きを通して、イスラエルが回復され、エルサレム聖殿は再建されると預言しました（エゼキエル37:11-14）。捕囚地から帰還してエルサレム聖殿を再建するときも、イスラエルの民は聖霊様に頼らなければなりませんでした。預言者ゼカリヤは、聖霊様の力に頼ってこそ聖殿再建の働きを全うできると宣言しました（ゼカリヤ4:6）。このように聖霊様は旧約歴史全体においてイスラエルの民とともにおられながら、多様な方法で彼らを助け、救いの歴史を導かれました。

**3．イエス様とともにおられた聖霊様**

旧約に出てくる祭司、預言者、王などは油注ぎを受けて神様のわざを行ないましたが、彼らに臨まれた聖霊の臨在は断片的で、彼らの働きはいつも不完全でした。しかし、神の子イエス様は「神が御霊を無限に与えられ」て聖霊様と常にともに歩み（ヨハネ3:34）、聖霊の力で神様のみわざを完全になさいました（ルカ4:18-19）。

聖霊様はイエス様の全生涯にともにおられました。イエス様は聖霊によって胎に宿り（マタイ1:20）、洗礼を受けられるときに聖霊様がその上に臨まれ（マタイ3:16）、聖霊の導きによって悪魔の試みに勝利されてから公生涯を始められました（マタイ4:1）。聖霊様と常にともにおられたイエス様は、他の誰にもできないような、ただ神の御子だけができる働きをされました。イエス様は人々に聖霊をもって洗礼を授け（ヨハネ1:33）、永遠に渇くことのない命の水を下さいました（ヨハネ4:14）。聖霊充満なイエス様が行く先々に、いのちのみわざが現れました。

以上のように、聖霊様と常にともにおられたイエス様は、私たちがついていくべき人生の模範です。私たちは、イエス様がそうであったように、聖霊様といつもともに歩みながら、行く先々で命のみわざを行なわなければなりません。毎日、聖霊で満たされて、イエス様のような人生を歩む私たちとなりましょう。

◆**祈り及びとりなしの祈り**

1．ヨセフのように聖霊に満たされて卓越した力を発揮できるよう祈りましょう。

2．どんなことをするとしても、聖霊様に頼れるよう祈りましょう。

3．いつも聖霊充満で、どこに行っても命のみわざを起こせるように祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。